

令和3年度 学校評価(自己評価・学校関係者評価)

赤穂市立有年中学校

1 本年度の学校経営方針

- ◆学校教育目標 『正々堂精神』を『誇り』とし、こころ豊かな自立する生徒の育成
～ふるさと有年を想い、地域との一体感のある学校をめざして～
- ◆基本方針
 - (1) 「わかる授業」をめざし「主体的・対話的で深い学び」に向けた授業づくりを進める。
 - (2) 変化に対応できる「生きる力」を育て、『夢』と『志』を持つ豊かな人間性を培う。
 - (3) 歴史と伝統ある「有年中の『誇り』」を胸に、「ふるさと有年」を大切に思う心を育てる。

2 本年度の学校努力目標

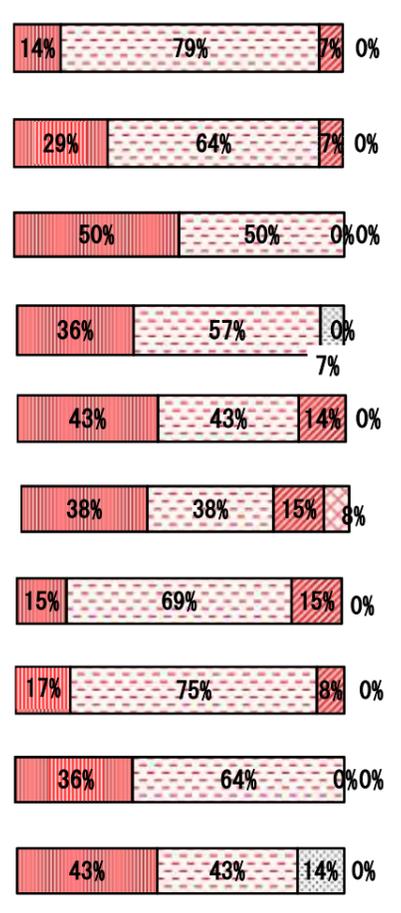
- (1) 安心・安全な有年中に
- (2) 学習が充実した有年中に
- (3) 心の通い合う有年中に
- (4) 地域に根ざした有年中に

3 本年度のめざす教師像

- (1) 人権感覚と人権意識を高め、豊かな心と命を大切にできる教師
- (2) 絶えず研鑽に励み、すぐれた指導力を身につけた教師
- (3) 生徒理解に努め、生徒に寄り添うことのできる教師
- (4) 家庭・地域とともに歩むことのできる教師

4 自己評価結果 (A～D) A:達成した B:ほぼ達成した C:あまり達成できなかった D:達成できなかった 学校努力目標

NO	評価項目	A	B	C	D
1	生徒にわかりやすい授業を行っている。	2	11	1	0
2	授業の改善のため工夫をよくしている。	4	9	1	0
3	質問は大いに歓迎し、笑顔で対応している。	7	7	0	0
4	生徒の考えをよく聞いて、ほめることをしている。	5	8	1	0
5	進路についての話をよくしている。	6	6	2	0
6	災害が起きた時を想定し、避難方法を具体的に話しをしている。	5	5	2	1
7	生徒は毎日喜んで登校している。	2	9	2	0
8	楽しいクラスづくりに取り組んでいる。	2	9	1	0
9	自他や家族を大切にし、楽しく生きることを指導している。	5	9	0	0
10	「友」の大切さ、ありがたさ等をよく話している。	6	6	2	0



分析と改善の方策

(1) 安心・安全な有年中に
 【成果】
 ・相談できる教師がおり、安心した学校生活につながっている。
 ・避難経路の掲示、避難訓練を定期的に行い避難方法を理解している。
 ・長年の交通安全教育が認められ、「自転車通学安全モデル校」に指定された。
 ・いじめや暴力に対し、教職員も意識を高く持っており、そのことが生徒の安心感につながっている。
 【課題】
 ・おおむね楽しく学校生活を行っているが、学校へ行くのが楽しくない、クラスが楽しくないという生徒が少数ではあるがいる。
 【改善の方策】
 ・日常的に異学年での交流が持てる機会を作る。給食、清掃、全校での活動など。
 ・意見を言い合って、和を探っていくような授業を増やす。
 ・勉強が楽しいと思えるような授業を行いたい。

(2) 学習が充実した有年中に
 【成果】
 ・授業中、熱心に取り組んでる。
 ・結果だけでなく、取組経過を含め生徒の努力を認めることができている。
 ・体を動かす事が好きという生徒の割合が増加した。
 ・小規模校の特性を生かし、きめ細かい個に応じた指導が学力の定着につながっている。
 【課題】
 ・授業が分からないときに、質問しにくい生徒が一定数いる。
 ・学年により、進路についての話に差がある。
 【改善の方策】
 ・個人で考える時間の確保や個別への声かけを増やす。
 ・進路指導＝高校進学ではなく、将来を見据えたキャリア教育を充実させる。
 ・キャリア教育の中で、保護者からの意見をもらう所を作り、将来について共に考えられるように取り組む。
 ・部活動を通して、一生懸命取り組み、充実感や達成感を味わわせる。

総合的な学校関係者評価

- ・少人数の学校なので、何かとできないことがあると思いますが、先生と生徒の距離、生徒同士の距離が近いという有年中の特性を生かして、学習・行事が行われているのは素晴らしい。
- ・新型コロナ感染防止対策がとられて約2年、新しい生活様式にも少しは慣れてきて、学習や運動が健全に行われるよう、よりよい環境を整えていただき、感謝しています。
- ・正々堂精神、ノーチャイム精神は子どもたちの一生の宝になると思うので、これからも続けて欲しい。
- ・「ふるさと有年」に生まれ、生活していることに誇りを持てるように、具体的な生活場面において実感できるような経験を重ねていただきたい。
- ・「地域の教育力」を信じ、それを引き出すことができるように、具体的な行事、学習場面で工夫していただきたい。
- ・生徒アンケートと保護者アンケートに若干の違いがある。生徒が正直に答えているように思える。その違いを保護者へも知らせ、保護者に子どもに対する接し方を少しずつ自然に変えてみてはどうか。

<調査人数> 14

学校関係者評価

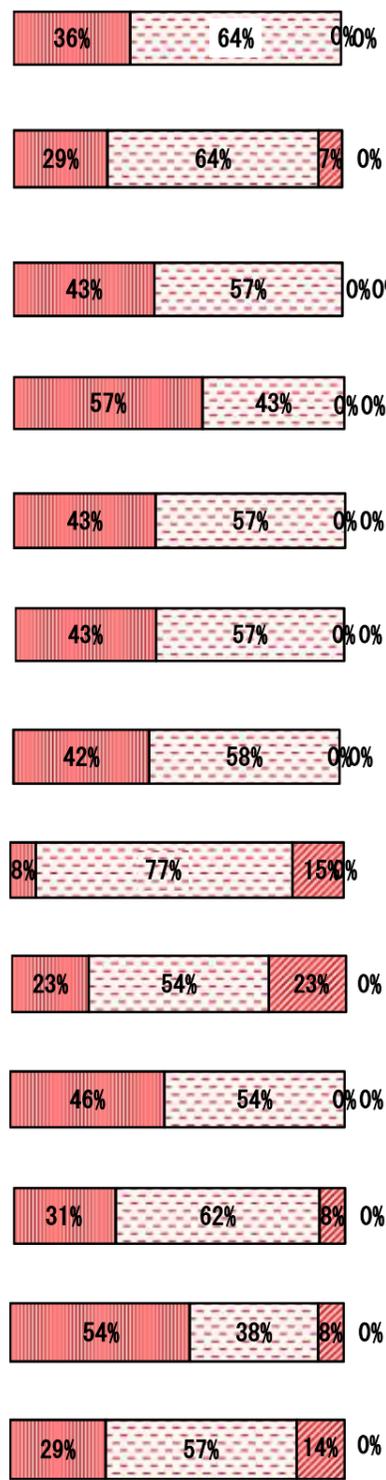
◎適切である ○ほぼ適切である △あまり適切でない ×適切でない

自己評価は適切か	改善方策は適切か	課題と来年度の具体的な改善方法
◎	○	<ul style="list-style-type: none"> ・一人で悩んでいるのか、楽しくない理由は何か、個別に何が原因かを聞き取り助言をし、生徒が前向きになるよう指導する。 ・小規模の特性(長所・短所も含めて)を生かしつつ、今後とも普通の学校生活、行事の実践につとめていただきたい。 ・有年中生としての帰属意識を持つことができるよう、働きかけを継続していただきたい。 ・国道2号線が貫通する校区であると言う安全意識を常に持ち続けていただきたい。
○	○	<ul style="list-style-type: none"> ・進学目標だけでなく、将来の目標を考えられる機会を作り、働く事の楽しさを伝えていただきたいです。 ・個人に目が届くという長所を生かしながら多くの意見を吸収し得る機会といった学びの工夫も今後具体化していただきたい。 ・親世代が受けた進路指導と現在の実情は大きな違いがある(学区、進学先等)。今では家庭で進路について調査することも可能であるが、学校として今一度、取り組んでいただきたい。 ・部活動のあり方についての再検討(種目、人数、指導者等)。

●新たな課題と方策 ◆昨年度からの継続課題と方策

◎適切である ○ほぼ適切である △あまり適切でない ×適切でない

NO	評価項目	A	B	C	D
11	生徒が安心して生活できる居場所づくりを進めている。	5	9	0	0
12	生徒の話を静かに優しく聴くことを大事にしている。	4	9	1	0
13	生徒がいじめや暴力のない学校生活を送れるように取り組んでいる。	6	8	0	0
14	努力することの大切さを指導している。	8	6	0	0
15	間違っただ行動に対して、厳しくわかりやすく指導している。	6	8	0	0
16	思いやりの心や命を大切にする学習を機会あるごとにしている。	6	8	0	0
17	道徳の時間は、資料を通して自分のことを振り返る時間になっている。	5	7	0	0
18	「正々堂精神」で行動をすることのすばらしさを指導している。	1	10	2	0
19	「早寝・早起き・朝ご飯」運動の意味を大切に、生徒に啓発している。	3	7	3	0
20	部活動などで、生徒が体を動かすことができるように工夫している。	6	7	0	0
21	部活動で、連帯感、成功感を味わせ、興味を持たしている。	4	8	1	0
22	部活動では「技」だけでなく、心の成長を大切にしている指導を行っている。	7	5	1	0
23	「気づき、考え、行動する」を意識した、生活の充実さを指導している。	4	8	2	0



分析と改善の方策

(3) 心の通い合う有年中に

【成果】

- 生徒会活動や学校行事で自分の役割を果たしていると全員が感じている。
- 命や人権について学習をする機会を持ち適切に指導している。
- 清掃活動、整列した駐輪等周りの人のことを考え行動できている。

【課題】

- 友だちに相談しにくいと感じている生徒が生徒が2割程度おり、人間関係の構築に悩んでいる生徒がいる。

【改善の方策】

- 少人数グループ学習を活用し、他者の考えを素直に受け入れたり、認める雰囲気作りを行う。
- 異学年集団でチーム作り、達成感を得られる体験活動や行事の計画を進めていく。
- 自己尊重のコミュニケーション（アサーショントレーニング）の学習を行い活用能力を身につける。

自己評価は適切か	改善方策は適切か	課題と来年度の具体的な改善方法
○	○	<ul style="list-style-type: none"> ・幼、小と少人数で育っているので、先生も子ども同士も、その子の性格をよく理解し認めてくれているが、中学を卒業して、大人数の世界に入ると、今までと違う環境に戸惑ってしまうところがあると思われる。その中でも、自分に自信が持てるように「自己肯定感」を高められるよう接していただきたい。 ・自分自身を、受容する姿勢に加えて、他者の価値観を尊重することの大切さを、生活のあらゆる場面で考えさせていただきたい。 ・内面を深める機会、想像力を高める経験を持つことができるように、時間的制約があり難しいと思われるが、読書の機会を増やしていただきたい。 ・一人ひとりの生徒の持ち味が生かせる場面、各々の良さが評価される機会を持つことができると願う。 ・普通に生活していることに幸せを感じて家族や友人や周囲の人たちに思いやりと感謝する心を持って生きていってほしい。

(4) 地域・家庭に根ざした有年中に

【成果】

- 6校園所で取り組んでいる「早寝・早起き・朝ご飯」を実践し、ほぼすべての生徒が朝ご飯を取り、余裕を持って登校できた。
- 長年にわたり取り組んでいる「正々堂精神」「ノーチャイム精神」等の学校の伝統を意識して生活できている。
- 学校、家庭、地域であいさつをしっかり行っている。

【課題】

- 多くの地域行事、ふれあい行事が中止となり、生徒が地域で活躍する場、地域の方々に学校にきていただける機会が少なくなった。

【改善の方策】

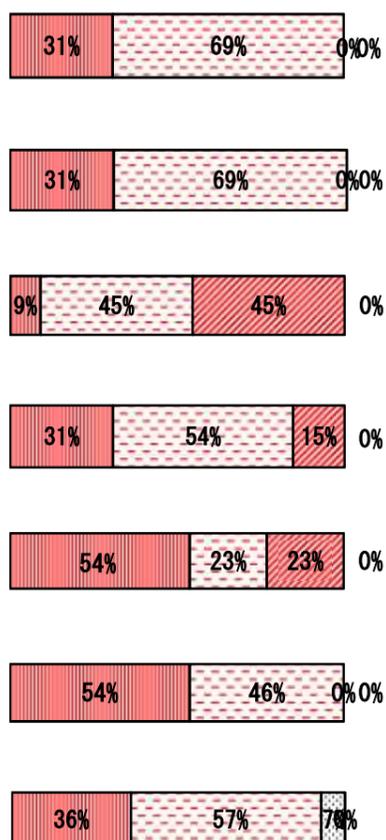
- 保護者、地域への情報発信の仕方を改善する。
- 生徒や学校の様子を見ていただける機会を定期的に作る。
- 通信、電話連絡、家庭訪問を通して、生徒や学校の様子を伝える。
- 卒業後も大切な「正々堂精神」「ノーチャイム精神」について考える機会をもうける。

自己評価は適切か	改善方策は適切か	課題と来年度の具体的な改善方法
○	◎	<ul style="list-style-type: none"> ・今はコロナの影響で、地域とのふれあいがしにくいかもかもしれませんが、有年中の生徒が地域の方に応援してもらえる学校になれば・・・と思います。 ・あいさつや登校の仕方（自転車マナー）など、生徒一人ひとりの行動が大切だと思います。 ・コロナ禍の中で、人との接触を避けることが求められてきましたが、少人数のメリットを生かし、工夫して行事を開催する努力を続けていただきたい。 ・歴史的に多くの「遺産」を持つ有年地区のことを学ぶ機会を増やしていただきたい。義士教育だけでなく、地域の歴史や遺産についても学んで欲しい。 ・地域の教育力をもっと生かす努力・工夫をしていただきたい。協力しようとする地域の特性を十分に生かして欲しい。 ・ふるさと有年の歴史や昔から続く行事や伝統文化を学び、継承し後世に伝えてもらいたい。 ・生活習慣をしっかり整えて心身共に健康で笑顔で生活できるように早寝・早起き・朝ご飯の実践を続けていって欲しい。

●新たな課題と方策 ◆昨年度からの継続課題と方策

◎適切である ○ほぼ適切である △あまり適切でない ×適切でない

NO	評価項目	A	B	C	D
24	先輩・後輩をお互いに認め、尊重する学校づくりに努めている。	4	9	0	0
25	学校行事や生徒会活動等での体験活動を多く経験させ、豊かな心を醸成している。	4	9	0	0
26	地域の行事やPTA活動に積極的に参加し、保護者地域との関係をよくしている。	1	5	5	0
27	「あいさつ」は相手に対する思いやりを形に表したものと生徒によく話している。	4	7	2	0
28	生徒は掃除をよくしている。	7	3	3	0
29	駐輪がきちんとできている。(徒歩通学は除く)	7	6	0	0
30	生徒には優しくわかりやすい言葉で接している。	5	8	1	0



分析と改善の方策	
(5) 全体を通して	
<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・感染防止対策を行い、工夫し教育活動を実施した。 ・情報モラル（保護者参加）についての講演会を実施し、インターネット、SNS等の危険性について学び、意識向上につながった。 ・無人購買部『正々堂』51周年にあたり、卒業生に來校いただき講演会を実施した。有年中学校の伝統として、今後も引き続き発展させていきたい。 ・規模を縮小したり、延期したりしながら、ほぼ例年と同じ学校行事を実施することができた。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・これからインターネットを利用する機会が益々増える。情報端末の正しい使い方、危険性を知り、メディアリテラシーを向上していく必要がある。 ・コロナウイルス感染症の影響で地域で活動する場面が少なくなった。 <p>【改善の方策】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・通信、電話連絡、家庭訪問等を充実し家庭との連携を密にし、学校と家庭が両輪で育成できるように取り組む。 ・SNS、インターネット、ゲームの正しい使い方を身につけるように、情報モラル研修を継続して実施する。 ・感染症対策を講じながら、地域で活動する場面をもうける。 	

自己評価は適切か	改善方策は適切か	課題と来年度の具体的な改善方法
◎	○	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナの影響で、子どもたちの様々な行動が制限され、多感な時期の成長に大きな影響を与えているのはとても残念です。そんな中でも、先生方の工夫で、ほぼ例年と同じ学校行事ができたこと、本当にありがたいです。 ・来年度、コロナがどうなっていくのか不安や心配がありますが、なるべく、子どもたちにいろいろな経験をさせてあげて欲しい。 ・親世代、教員よりも生徒の方がネット生活に先行している感は否めない。何らかの問題が起きてから後追いするようでは、深刻になるばかりである。予測しうる課題、想定される問題に対応できるように、こうした方面での講習は不可欠となってくる。 ・時代に即した対応と同時に従来の伝統的な生活を維持、継続することの大切さも改めて意識したい。 ・中学生の健やかな成長を願うという地域の基本姿勢を確認し、日々の生活に結びつけていただきたい。 ・学校、家庭に地域が連携し学力だけでなく、子どもたちが将来生きていくための基礎知識の習得や社会集団での適応力を養うことが必要ではないかと思えます。

自己評価における特記事項

・生徒は満足度が高いのに保護者は低くなっている。これは家庭で話をあまりしないため、自分の子が満足していることを親は知らないのか、生徒が家では不満を言っているのか、親自身がもっと教師に関わって欲しいと思っているのか、そのあたりが分かりにくい。質問の仕方を工夫する必要がある。

・項目について、連続性が大切ではあるが、実情にあわせて見直していくことも必要なのではないか。

・生徒理解をすすめるための職員研修の時間が必要である。

・今回のアンケート結果を見て考えたことを、今後の教育活動に活かしていけるよう改善していく。

・アンケート結果を年度初めに再確認し、低い項目が改善するよう取り組む必要がある。

評価項目以外の来年度の課題や具体的な改善方法

・アンケートの評価は、おおむね高評価で、嬉しいことですが、少数ですが満足していない生徒もいるようですので、そこにきちんとスポットを当て、対策していただきたいです。

・反抗期でまだまだ不安定な生徒たち、先生方も自分自身を振り返って、自分もこの年代はどうだったのか、生徒に寄り添って最善策を見つけ、課題改善に取り組んでいって欲しい。

・一つ一つの課題にリーダーをもうけて、意見を出し合い解決に向け取り組んで欲しい。

・学校で見せる姿と家庭での姿は異なるものであるという前提のもとで、検討を加える必要がある。

・地元の自然を愛し、自然環境を守っていく心を育てる教育を希望します。